

NAAGATO 長門

日本海軍戦艦
JAPANESE NAVY
BATTLESHIP

多色成型
スナップキット



長らく連合艦隊の象徴であった「長門」が最後の決戦に挑む!



- 製品は、接着剤を必要としないスナップフィット式で設計されおり従来のキットとは一線を画す仕様としたシリーズです。
- 組立方式はすべてはめ込み式です。(ヘビーユーザー向けボーナスパーツを除く)
- 色調は予め主要色分け、着色済み成型材を使用し表現、細部やマーキングは追従性に優れたリアルシールで再現します。
- ★製品は長らく連合艦隊旗艦を務めたのち、戦時の昭和19年10月捷一写作戦時の姿がモチーフ。
- ★電探の搭載や、副砲の撤去、舷窓の閉塞など戦訓からの改造を受けた姿。

○展示台座

水平面は平滑な面仕様とざらついた彫刻で、青く塗装すれば波をイメージすることができるリバーシブルパーツ仕様。



- 形状を見直し新設計で安定性がアップ! 低重心化、設置面積も増えて安定。
- 成型色は黒色で全4パーツ構成

- 実艦解説 -

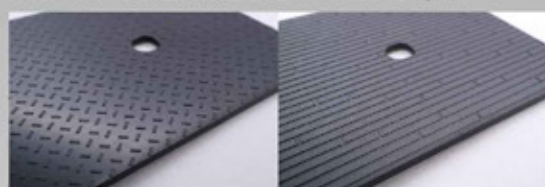
八四艦隊計画をもとに大正5年度計画で建造、呉海軍工廠にて大正9年竣工。日本海軍が当時蓄積した技術を基に独自設計・建造した戦艦であり世界に先駆け主砲は41センチを搭載、水平/水中の両防御に重点をおいた最強の戦艦であった。

昭和9年には各所改正のため改装を実施し、基準排水量39,130トン・全長224.9メートルの列強に対抗しうる戦艦となり、連合艦隊の旗艦も務め国民から帝国海軍の象徴として親しまれた。

太平洋戦争では、MI作戦(ミッドウェー海戦)、あ号作戦(マリアナ沖海戦)、捷一写作戦(レイテ沖海戦)に参加、生き残るもその後は本土決戦に備え横須賀で浮き砲台として係留。苛烈な大戦を生き残るも米国原爆実験の標的に供され昭和21年、静かに沈む。

初回生産ロット限定!

展示台上面がストリップ模様/木甲板模様とメカニクな表面彫刻をしたバージョンが付属。



○付属シール

- 専用の新規デザインシール
細部を彩る多彩なカット済みシールと、マニアックな内容のおまけ収録。
- ・軍艦旗や主砲防水キャンバス、艦橋窓や応急材木を収録。
 - おまけ収録(カット作業が必要)—
 - ・単装機銃据付架台
 - ・プロペラシャフト(金色)
 - ・艦橋キャンバス など

○ボーナス収録

ヘビーユーザー向けに接着で再現組み込みするパーツを用意!

- ・機銃部の防弾板
- ・舷梯
- ・25ミリ単装機銃
- ・通気筒
- ・艦橋外増設伝声管
- ・双眼望遠鏡 など

●主要部品の再現特徴

昭和18年5~6月入渠の記録より呉海軍工廠色を模した着色済みプラ部品。

舷側は装甲板の継ぎ目を再現し精密感あふれる表現に。

舷窓は大半が閉塞され、塞ぎ板による形状を凸彫刻で繊細に表現。

艦底板の継ぎ目部を繊細な彫刻で再現。

底部にある給排水口は残された艦艇図面を参考に表現。

艦底、スクリューブラケットや舵は赤色で、プロペラは金色の着色済み成型品で塗装不要。

1・4番と2・3番主砲天蓋、ハシゴの有無の差を別パーツ化し表現。

主測的所と予備指揮所は、前部に覆いの鉄板を再現。



▲艦橋基部の壁面は、造形を表現するためスライド金型を起用。

航空作業甲板はリノリウム色の着色済み成型品で塗装不要。

副砲の防水キャンバスは省略することなく再現。

カタバルトは、側面トラスおよび上面の形状を再現するためスライド金型を起用。

航空機移送軌条の留め具まで繊細な彫刻で表現。

航空機揚収クレーンは収納状態とし、残された写真をもとに基部の蓋を再現。

煙突は、蒸気捨管など付帯設備を一体化することで組立の容易化を実現。

戦時を象徴する応急材木置場を艦中央部に再現。

9mカッターは2隻が展開吊下げ状態、2隻が甲板格納状態とし、右舷後部のダビットは格納状態としカッター1隻はボーナス収録。

艦橋各層床面は、リノリウムやグレーチング、ストリップなどの細かい部分まで再現。

後部マストの13号電探2基は、支基と一体成型とし組立工数を低減。

- 艦載偵察機として濃緑色に着色された零式水上観測機が1機付属。
- 零式水上観測機は付属シールで日の丸や黄帯を再現する仕様。

単装機銃部に防弾目的で積み上げられた土嚢を専用パーツで再現。土嚢パーツはベージュに着色された麻袋風▶

